



Title	刊行によせて
Author(s)	生越, 明
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 5
Issue Date	1998-03
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/35347">http://hdl.handle.net/2115/35347</a>
Type	bulletin (article)
File Information	5_kankou.pdf



[Instructions for use](#)

# 刊行によせて

技術部長 生越 明（農学部長）

平成9年11月17日、文部省から「国立大学、国立短期大学及び国立高等専門学校  
の技術専門官及び技術専門職員に関する訓令」（平成10年4月1日実施）が出された。  
その内容は、国立大学等に技術専門官及び技術専門職員を置くことができ、技術専門官は、  
極めて高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発  
及び技術業務並びに学生の技術指導を行なうとともに、技術の継承及び保存並びに技術研  
修に関する企画及び連絡調整を行なう、技術専門職員は、高度の専門的な技術を有し、そ  
の技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を  
行なうとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する調査研究を行なう、となっ  
ている。これらは技術職員をもって充てるとなっており、目下大学としての取り扱いを検  
討中である。これは、これまで要望してきた、技術系職員の処遇改善に役立つものと期待  
している。

農学部の大学院重点化が進行していることは周知のことであるが、第2の専攻、環境  
資源学専攻が平成10年度予算政府案に乗せられた。この専攻は5基幹大講座と1協力大  
講座からなり、助手の振替えにより、教授2名、助教授2名の増になる。これらはそれぞ  
れの大講座内の大学院専担分野を担当することになる。また、演習林の教官が協力講座で  
ある北方森林保全学講座に参加する。環境資源学専攻関係の大学院学生数が修士課程26  
名から48名、博士後期課程13名から23名に増加する。これにより農学部の教官の4  
分の3が大学院に移行する計算になる。また、臨時増募学生が10名減少し、臨時増募教  
官も教授1名減となることも決定している。

さて、北海道大学農学部技術部は「研究・技術報告」第5号を発行する。技術部職員  
研修は技術部の主要な活動であるが、第6回が平成9年10月20、21、22日の3日  
間にわたり36名の参加者を得て実施された。今回の特徴は農学部外の講師を多数お願い  
した点にある。終了後のアンケート調査によっても研修が有意義であることが認識されて  
いる。技術部運営委員会及び実行委員会を中心とした着実な活動の成果である。

技術部をめぐる情勢には厳しいものがある。国立大学農学系学部長会議では昨年度、  
附属施設の整備・充実についての要望書を文部省関係機関に提出し、その中で技術系職員  
に関する件を重点としたが、今年度も同様の要望書を提出した。その内容は、1. 技術系  
職員の定員確保と増員、2. 技術系職員の処遇改善及び研修制度の確立、3. 教官組織の  
充実、4. 建物・施設・設備の整備・充実である。

農学部は大変革の直中にある。農学部・農学研究科の発展に伴って、教育研究支援職  
員の果たす役割はますます重要である。技術部の今後の発展と各位のご健闘を祈るもので  
ある。

平成10年2月